

【総 説】

思春期の喫煙者における
タバコ依存症の発症過程

いずみ 泉 のぶ お 夫

キーワード：ニコチン依存症，タバコ依存症，思春期，
心理的依存，自律性喪失

要 旨

ニコチン依存症は成人では普通，毎日喫煙者の身体的依存を主体にみる。思春期では少なからず，仲間意識などの心理的要因により喫煙が動機付けられ，依存もきたし得る。早期からリラックス感などを求める精神的依存になり，喫煙強度を，変動をしつつも漸増させる。離脱症状は月に数回の喫煙でも認める。毎日喫煙まで2～3年を要し，その後に成人の依存症の診断基準を満たすことが多いが，間欠的喫煙のうちからしばしば禁煙困難になる。若者に早期にタバコ依存症を認識させ，対策に結びつけるため HONC，DTDS などの若者独自の判定基準が提示されている。タバコの害の知識や構内禁煙は喫煙開始の防止には有効だが，禁煙対策の効力は乏しく，依存症への対応が必要である。

はじめに

ニコチン依存症 (nicotine dependence ; 以降，ND) を含む薬物依存症は一般に，快を求めるか不快を避けるための向精神作用を持つ物質の摂取が継続し，摂取の抑制が困難で，止むに止まれない慢性・進行性の疾患の過程である¹⁾。段階でなく過程であり，どこをもって ND とするのか本来は難しい²⁾。

様々の ND の判定基準は，成人喫煙者の研究

から，ニコチンの血中最低濃度の維持と，それが少なくとも1日5本程度の毎日喫煙で達成されることを想定し作成されてきた³⁾。

成人の常習喫煙者のほとんどは思春期か若年成人に喫煙を開始する。喫煙の初期は間欠的で，漸増していくが⁴⁾，この年代では多くは毎日喫煙の前にすでに禁煙困難になっており^{3,5)}，これに依存症のメカニズムが働いていることは疑いない^{6,7)}。

我国では2006年度より「ニコチン依存症管理料」が新設されたが，算定基準には質問紙テストによる ND の診断とブリンクマン指数 200 以上 (例えば1日20本を10年) が付されてある⁸⁾。これは，ある重症度のヘビースモーカーを対象とす

Nobuo IZUMI

出雲市立総合医療センター小児科

連絡先：〒691-0003 出雲市灘分町613